

編集後記

アメリカ発で様ざまなものが世界を席卷しています。ハンバーガーやコココーラ等の食文化のみならず、アメリカンポップスを始め、皆さんの大好きなデイズニールランドもその代表格ですが、ポジティブ・シンキングなどというものもその一つです。そこから派生して、今世間を席卷しているのは「自己肯定感」や「達成感」という何とも手に負えない代物です。揺るぎない自己肯定から果たして何が生まれて来るのでしょうか。

政治家も責任ある立場の人たちもその場を切り抜けるためだけの言い訳に終始し、誰も責任を取ろうとしません(だってわたしが悪いのではない。悪いのは……だ)。行政機関は自分たちのミスを認めようとはしません(間違っているのは理解できない国民・市民の側だ)。社会は無責任な大人で溢れかえっています。子供たちはそれを見て育ちます。上手に言い訳の出来ない、言葉に習熟していない子供たちがキレるのは理の必然です。

教育機関も人ごとではありません。自分たちのアライ作りとしか思えない、満足度調査なるものを学生・生徒たちを対象に実施し、それで教育現場の評価をしようとしています。

す。そこで出る数字をどう分析しているというのでしょうか。向学心の強い学生・生徒にとって、通り一遍の手抜き授業は腹立たしい限りですが、単位さえ取ればいいという学生・生徒にとっては、要求レベルの低い授業の方が満足度が高いとも言えるのではないのでしょうか。こんな数字で〈自己肯定感〉を〈満足〉させている教員とは一体全体何者なのでしょう。

仏教の言う自己省察は、決して自己肯定するためのものではありません。飽くまで新たな出発へ向けてのスタートラインの確認のためのものです。現在の自己は批判的に受け止めなければなりません。先ず徹底的な自己確認・現状認識をして、そこから目的に向かって出発するのです。（仏教の難しい言葉で「厭離穢土、欣求浄土」と言う言葉がありますね。覚えなくてもいいですよ。笑）。わたしの尊敬する学僧がその辺りのことを「ゆるやかな自己否定」という言葉で表現してくださいました。根こそぎの自己否定ではなく、余裕を持って批判的に自分自身に関わる様子を大変良く言い当てている言葉だと思います。

敬愛する先生が最近お亡くなりになりました。好奇心の塊のような方でしたが、晩年は老人性の痴呆症を思い苦しんでおられました。でも彼女はその最中であっても「勉強したい」とおっしゃいました。凄いでしょ？ 人生とは残酷なものです。

実は私たちは何歳になっても未完成です。死ぬまで発展途上の存在です。自分の未熟さを真摯に受け止め、好奇心を燃やし続け、未来志向で人生を送ってください。現状満足の自己肯定ほど始末に負えないものではありません。宗教講座でお話をしてくださった先生方は全員好奇心の塊のような方たちです。この書物を時に思い出し、手にとってください。きつと何事かを語りかけてくれるはずですよ。

最後になりましたが、ご講話をいただいた講師の先生方には、ご多用の中、原稿にお目通しいただきありがとうございました。衷心より御礼を申し上げます。

(編輯子)